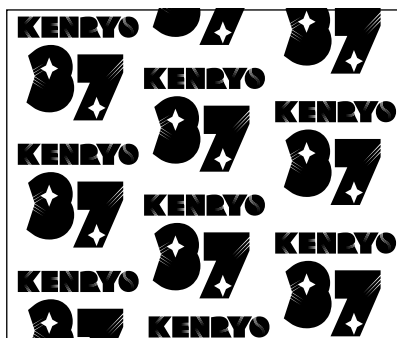


平成 31 年 4 月 30 日発行 第 41 号



みんなの会

37回卒 同窓生一同

ことしも東京同窓会の開催ありがとうございます。先輩がた、後輩たちと美味しいお酒を飲んで、覇権の剣を歌って、それからまた飲んで食べて歌う一日です。

以下の広告表現に訂正させていただきます。

令和 2 年 5 月 7 日発行 第 42 号



← どこだかわかる？



みんなの会 37回卒 同窓生一同



Report

母校応援団訪問

取材レポート 久保田昇子くぼたのりこ(高18回卒)

女子も男子もいる応援団

縣陵で初の女子応援団長が誕生したと聞き、とても興味をそそられた。バンカラ、上下関係、スバルタ式等のイメージがある応援団だが、ついに女子が入り、応援団長にもなれたのだと嬉しかった。当の杉本芽生すぎもとめいさんに聞いてみると「応援練習の時の応援委員の所作がカッコ良くて、私もやってみたいな、と思ったのです。」と微笑んだ。

その思いから、いざ入ってみると、上級生は男子だけだが、同期は六人全員が女子だったという。当然、三年生になれば、女子だけになることがわかっていたわけで、初の女子応援団長誕生は、ごく自然な成り行きだったようだ。

聞けば、今年の一年生も全員が女子だという。何故、男子のなり手がいないのか、不思議に思ったので、男子委員に聞いてみた。

五十嵐一真いがらしかずまさんは「今は女性の方が積極的な時代だし、男子は応援することに意義を見出せない

かったりする。それに最近、部活が盛んになり、部によっては応援委員とダブってはいけない、というしりがあるのです。」

二〇一七年、NHKで東京六大学初の女性応援団長誕生の番組が放映された。大学でもそんな新風が吹く時代なのだ。高校生の女子応援団長誕生など、なんの不思議もないのかもしれない。

杉本さんは、女性ならではの視点から、応援団を変えていく。「怒

鳴るような口調や人をけなすような言葉遣いを改め、パフォーマンスの時、三年生も指揮台に乗れるようにしました。」私は、応援委員の入室、着席等の時に、全く男女の別なく行動していた



5名の新3年生が披露してくれた「フリー、フリー、ケンリョウ」のエル・パフォーマンス

のが、新鮮に映った。杉本さんが、応援団長を務めてよかった点は「自分に自信を持てたこと」というが、結果的に風通しのいい応援団にしてきたわけで、その言葉が自然と腑に落ちた。

現二年生も先輩の姿に憧れた

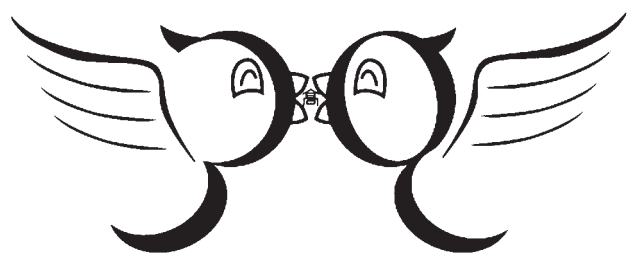


← どこだかわかる？



みんなの会 37回卒 同窓生一同

Hello!
We are
Thank You
KENRYO-Kai!



高校39回卒業生の会 サンキュー縣陵会